

中国語教育における類義語弁別法“范围大小”と“词义轻重”について

浅野 雅 樹

目次

- 1 はじめに
- 2 “范围大小”について
 - 2-1 “词义范围（意义范围）”と“使用范围（适用范围）”
 - 2-2 各類義語辞典における使用状況
 - 2-3 “使用范围（适用范围）”の内容
 - 2-4 問題点
- 3 “词义轻重”について
 - 3-1 “词义轻重”「語義の軽重」とは
 - 3-2 各類義語辞典における使用状況
 - 3-3 他の弁別法による結果との相関性
 - 3-4 問題点
- 4 共通の問題点
 - 4-1 類義語群における位置づけ及び範囲、軽重の差について
 - 4-2 “使用范围”で弁別される類義語の三つの類
 - 4-3 “词义轻重”で弁別される類義語の三つの類
 - 4-4 二つの弁別法を効果的に用いるには（まとめ）

1 はじめに

日頃、中国語の授業をしていると、学生から「この語とこの語にはどのような違いがあるのですか。」という質問をよく受ける。つまり類義語の問題であるが、これは入門から上級までどのレベルの学習者にとっても重要な学習事項であると言える。またいくつかの検定試験¹⁾においても、類義語の問題はよく出題されている。このようなことから教員にとっては、学習者に様々な類義語をいかに効率よく区別を認識させるかということが非常に重要な教育課題となる。

教育面²⁾での類義語に関する研究課題としては主に以下に示すような三つのことが考えられる。

- ①類義語の選定
- ②類義語分析、解釈
- ③分析法や弁別法についての考察

まずどの語とどの語を類義語として見なすのかという類義語の選定が挙げられる。このことは中国人か、あるいは日本人などの非ネイティブ学習者であるかにより類義語の選定を換える必要があるという点も含む。次の②は類義語研究の本題であると言える。つまり、一組の類義語についての共通点と区別を指摘し、どのような分析法を用いて学習者にわかりやすいように解説するのかという点である。③の類義語分析法や弁別法の考察というのは類義語の分析において使用される分析法や弁別法そのものに対する研究である。前述の①と②についてはこれまで多くの研究がなされてきたが、③についてはこれまであまり注視されていない課題であると言える。

本稿は上述した③の中の弁別法³⁾について論ずる。例えば弁別法については次のような問題が挙げられる。“接

受”と“接收”という類義語に対して、どのような弁別法により区別が指摘されているかということを調査して見ると、以下のように各辞書によって用いられている弁別法が異なることがわかる。

『张志毅 2004』・意味の重点 ・具体義、抽象義 ・造語能力 ・文法機能

『袁晖 2003』・意味の重点 ・具体義、抽象義 ・使用範囲 ・文法機能 ・意味項

『陈炳昭 2001』・意味の重点 ・具体義、抽象義

『杨寄洲 2005』・具体義、抽象義 ・連語関係

例えば『袁晖 2003』では「使用範囲」という弁別法が使われているが、他の三つの辞書では使われていない。このような場合、“接受”と“接收”という類義語に対しては、「使用範囲」を使うべきか否かという問題が生ずる。つまり弁別法の使用面での妥当性を検討しなければならないということである。これに対してはまず各々の弁別法の使用状況を調査、考察した上で、ある弁別法がどのようなタイプの類義語に用いられるべきかということを見出す必要があると言える。

また、本稿で行う考察の目的としては次のようなことがある。類義語辞典や教材を見ると、前述したような弁別法の使用、さらに積義や用例の提示の仕方などの分析方法は多種多様であり、統一性に乏しい。相原 1998 や 吳 2008 には次のような指摘がある。

相原(1998:24)「類義語の分析はある決まった解き方がありそうで、実のところないというのが私の実感である。つまり、ある普遍的な鑑定法などなく、常に新たな問題として解かなければならない。」

吳(2008)「同义词的处理缺乏系统性—教师在辨析同义词时,头脑中没有预制的項目、顺序和层次作为指导,在设计讲解与练习时自然也就缺乏明晰的步骤和套路,于是教学内容不是选择不够全面,就是主次安排不当,结果不能高效地引导学习者走出那一团团微妙的迷雾。」

研究分野での類義語分析であれば、このような状況は何の問題もない。しかし教育分野においては改善の余地があると言える。つまり学習者の立場からすれば、各辞書の分析法や解説の仕方がまちまちであるよりも、ある程度一定化された分析法があった方が理解しやすく、学習上効果的であるということである。本稿で行う以下の弁別法に対する考察はこのような分析法の構築に対して有用性があり、また必要課題でもあると考える。

本稿は類義語弁別法の中では比較的多く用いられる“范围大小”「範圍の広狭」、「词义轻重」「語義の輕重」という二つの弁別法について主に類義語辞典の記載により考察を行い、最後にこの二つに共通する問題点を指摘する。

2 “范围大小”について

2-1 “词义范围(意义范围)”と“使用范围(适用范围)”

類義語の弁別において用いられる「範圍」には、“词义范围”「語彙的意味の範圍」と“使用范围”「使用範圍」の二つがある。

・ 词义范围(意义范围)

【边陲】意义范围广,除指靠近国界的地方外,还可以指大陆、大地等的边界。

【边疆】意义范围较广,指靠近国界的较大片领土。

【边境】范围比“边疆”小,只指紧靠国界的长条领土。『张志毅2004:56』

・ 使用范围(适用范围)

【延长】使用范围较广,既可用于人,也可用于物。

【延伸】使用范围窄,只能用于物。『袁晖2003:291』

上例の“边陲”、“边疆”、“边境”の三つで使われる例は、その語が示す場所の範圍が広いか狭いかということである。これは語自体が示す“词义范围”「語彙的意味の範圍」についてのものである。それに対して、“延长”、“延伸”の例において用いられているのは“使用范围”「使用範圍」であり、語についての語用的な意味、付随的な意味についてである。

2-2 類義語辞典における使用状況

(図表1)

類義語辞典 ⁴⁾	見出し語総数	“範囲”によって弁別された類義語数 ⁵⁾
『新华同义词词典』	708	121 (名 24 動 55 形 24 成語 16 副 1 代 1)
『简明同义词典』	569	83 (名 26 動 27 形 28 副 1 代 1)
『汉语同义词词典』	2168	440 (名 87 動 248 形 98 副 3 助 2 介 1 量 1 接 1)
『对外汉语常用词语对比例释』	254	34 (名 4 動 14 形 5 副 11)
『近义词使用区别』	136	49 (名 9 動 23 形 15 副 2)
『1700 对近义词语用法对比』	1700	20 (名 5 動 9 形 6)
『汉语近义词词典』	381	31 ⁶⁾
『どちらがう類義語のニュアンス2』	100	9 (名 3 動 4 副 2)

「範囲」という弁別法が、実際どのくらいの割合で使用されているのか。このことを明確にするため、何冊かの類義語辞典を調査した。(図表1)はその結果を示したものである。なお、この表に示す数字は“词义范围”と“使用范围”、二つを含めたものであるが、全体的におおよそ95%の例は“使用范围”の方であった。調査により、すべての辞書において、全体的に約1割から3割の割合で、「範囲」によって弁別がなされていることがわかった。

2-3 “使用范围(适用范围)”の内容

「範囲」について実際多く使われているのは“使用范围(适用范围)”であるということは前でも述べたが、ここではこの内容について具体的に見ていく。類義語辞典においてよく見られた内容としては以下の四つが挙げられる。

①人-事物(動物)

【急救】一般用于患急性病或受重伤的人。

【抢救】使用范围比“急救”宽，一般用于急待救护、救济的人或物，如“有生命危险的人或处于危急情况下的财产、濒临灭绝的珍稀动物、濒于失传的剧种”等。『梅立崇2002:409』

“急救”と“抢救”のように、人と事物(動物)に関してのものである。つまり範囲が広いとされる語が人と事物あるいは動物、植物などに用いられるのに対して、狭いとされる語は人だけに対して使われるということである。

②具体-抽象

【推行】使用的范围较窄，多用于抽象事物。

【推广】使用范围较广，可用于具体事物，也可用于抽象事物。『袁晖2003:255』

“推行”と“推广”の例のように、動作の対象が具体的か抽象的であるかという点である。つまり広いとされる語が、具体、抽象どちらも用いられるのに対して、狭いとされる語は抽象的なものに限られるといったことである。

③一般(日常的)-国家、政治など(公式的)

【来往】多用于普通人之间的一般性交往，适用于一般场合。

【往来】使用范围比“来往”宽，可用于普通人之间的一般性交往，还用于国家、高级领导之间的正式、非正式的访问交往。『梅立崇2002:552』

“来往”と“往来”の例のように、語が使われる場が日常的な場においてであるのか。それとも政治、社会、国家など厳粛な意味特徴を伴う公式的な場で使えるかどうかということである。つまり広いとされる語は、日常的な場のほか、公式の場でも使われるのに対し、狭い語は日常的な場でのみ使われるといったことである。

④上司(年長者)→部下(年少者)- 部下(年少者)→上司(年長者)

【会见】使用的范围较广，可用于上级会见下级，也可用于同级的人见面。

【接见】使用的范围较窄，只用于上级对下级的会见。『袁晖2003:110』

“会见”と“接见”の例のように、動作の方向性による範囲を示したものである。つまり、一方の語は年長者か

ら年少者（上司から部下）という動作にだけ使われる。それに対して、もう一方は上から下の動作のほか、同じ立場の人、同年齢の間の動作、あるいは年少者から年長者の動作にも用いられるため範囲が広いとされるといったことである。

2-4 問題点

ここでは、既存の類義語辞典で弁別法として用いられる「範囲」について、指摘できる問題点をいくつか挙げる。

① “词义范围”と“使用范围”の区別がなされていない

【地点】【地方】“地点”多指一点，“地方”可以指一个点也可以指一个面，范围比“地点”大。『杨寄洲2005:348』

【检查】范围广，可用于自己，也可用于他人。

【检讨】范围窄，一般用于自己。『袁晖2003:120』

“词义范围”と“使用范围”の二つは区別されるべきであることは前述した。しかし辞書の記載では、上に示すような“地点”と“地方”、“检讨”と“检查”のように単に“范围”とだけ記されている例が見られた。記述の内容からは“地点”と“地方”は“词义范围”で、“检讨”と“检查”は“使用范围”であることが判断できるが、この点は明記すべきであると言える。

② “范围”の内容についての説明がない

【愁苦】（「範囲」についての記載なし）

【愁闷】使用范围比“愁苦”宽。『梅立崇2002:129』

上の“愁苦”と“愁闷”の例のように、ただ「使用範囲が広い」とだけ記してあり、本稿の2-3で述べたような範囲の内容が全く記されていない例が見られる。このような記載は使用者である学習者の側から見れば、二つの語を区別する際の有益な情報にはならないと考えられる。

③ 範囲の対象として提示する語が多すぎる→コロケーション“搭配”

【纷乱】着重于纷繁杂乱，没有秩序。多形容“景象、场面、环境、事情、声音、思想、心情、生活”等。

【缭乱】着重于缠绕乱杂，没有头绪。多形容“景象、场面、思想、心情”等。使用范围比“纷乱”窄。『梅立崇2002:255』

“纷乱”と“缭乱”の解釈に示されるように、結びつく語をいくつか並べ提示し、結びつく語が多い方の語を範囲が広いとする記載が見られる。しかし、これは“搭配”「コロケーション」の問題であり、このことを「範囲」と直接結びつけることは検討の余地があると言える。結びつく語は数多くあるのが普通で、その中から提示される語はどのような基準で選ばれるのかということが問題になる。

④ “使用范围”による弁別の妥当性

【抚养】着重于抚养、教养。一般用于长对幼，对象多为“子女、年幼的弟弟、妹妹、孤儿”等，有时还可用于对动物的保护和饲养。

【扶养】着重于扶助、养活。可用于长对幼，也可用于幼对长，还可用于平等之间。对象可以是“子女、年幼的弟弟、妹妹、孤儿”等，也可以是“父母、祖父母、无亲人赡养的老人”等，还可以是“丈夫、妻子”等。使用范围比“抚养”宽。『梅立崇2002:276』

“抚养”は年長者から子供など年少者への動作に用いられ、“扶养”は年長者から年少者、さらに年少者から年長者、あるいは対等の関係の間でも用いられる点から範囲が広いとされている。しかし、その後の記述の動物に対して使えるかということについては、“抚养”は動物に対して使えるので、逆に使用範囲は広いという認識ができる。したがってこのような記載は、全体的に整合性を欠くものであり、使用者に混乱を招かせる恐れがあると言わざるを得ない。

【艰苦】【艰难】

(一) “艰苦”使用范围广，既可以形容客观上的各种艰难困苦，还可以形容主观上的坚忍刻苦；“艰难”侧重于形容客观事物，使用范围窄。(二) “艰难”还可以形容人的具体动作或神态。“艰苦”没有这个用法。

『袁晖2003:119-120』

上例の“艰苦”と“艰难”について、“艰苦”の範囲がより広いとされている。ただ次の項では前で狭いとされ

た“艰难”はさらに「人の具体的な動作や様子」を形容できるとあり、“艰苦”にはこの用法がないと記されている。

【提纲】【大纲】

(二) “提纲”使用范围比较广，既可用于发言、汇报、讨论，也可用于写作、学习、研究、宣传等；“大纲”使用范围比较窄，多用于课程、著作、计划等。(三) “大纲”有时还指政府或政党颁布的纲领性的法令、方案。“提纲”很少有这种用法。『袁晖2003:245-246』⁷⁾

“提纲”と“大纲”についても同じことが言える。まず“提纲”の範囲がより広いとされている。ただ、次の項では、前で狭いとされた“大纲”はさらに「ある時は政府や政党が公布する綱領的な法令や法案」を指し、“提纲”にはこの種の用法が少ない、という記載が見られる。

つまり上述の“艰苦”と“艰难”、“提纲”と“大纲”については「使用範囲」を用いて、一方が広く、一方の語が狭いとしているが、直後に前で狭いとした語だけが持つ意味用法を提示しているものである。このような記載により辞書の使用者は果たしてどちらの語が広いのか判断が困難になる可能性が大きい。したがって、このような例についても、「使用範囲」という弁別法を用いる意義をもう少し詳細に考える必要がある。

3 “词义轻重”について

3-1 “词义轻重” 「語義の軽重」とは⁸⁾

ここでは、“词义轻重”「語義の軽重」について述べる。これは類義語分析においてよく使われる弁別法の一つである。二つの語を比べて、一方が「重い」、一方は「軽い」とするのであるが、管見では軽重を判別する基準や方法についてはこれまでほとんど言及されていない。よって、このような判別はおおむね分析者の語感によってなされているものと認識できる。そこで、何人かの中国語教育の専門家に、軽重に対する直接的な語感のほかに、何を基準に「重い」か「軽い」が判別されるのかということを探ねてみた。その結果多かった回答は以下の三点であった。

- ① 重い語は程度が高く、軽い語は程度が低い。
- ② 重い語は厳粛・丁重であり、軽い語はこれらの意味特徴はない。
- ③ 重い語は書面語的で、軽い語は口語的である。

しかし、特定の基準や方法といったものは明言できないとかよくわからないという意見も多かった。

以下では、この「語義の軽重」の本質を明らかにするため、使用状況や使用上の問題点などを指摘する。

3-2 類義語辞典における使用状況

(図表2)

類義語辞典	見出し語総数	“词义轻重”によって弁別された類義語数
【新华同义词词典】	708	128 (名 13 動 76 形 40 副 2 接 1 成語 8)
【简明同义词典】	569	85 (名 6 動 50 形 26 副 5)
【汉语同义词词典】	2168	521 (名 52 動 279 形 165 副 32 接 1)
【对外汉语常用词语对比释】	254	10 (動 4 形 2 副 3 接 1)
【近义词使用区别】	136	12 (名 1 動 5 形 5 副 1)
【1700 对近义词语用法对比】	1700	4 (名 1 動 1 形 1 副 1)
【汉语近义词词典】	381	19
『どちらがう類義語のニュアンス2』	100	3 (動 1 副 2)

(図表2)は、2-2の「範囲」と同様、「語義の軽重」が各辞書においてどのくらいの割合で使われているかということを示したものである。全体的に約1割から3割の割合で、これによって弁別されていることがわかる。

3-3 他の弁別法による結果との相関性

一組の類義語に対して「語義の軽重」が使用された場合、さらにいくつかの弁別法で区別されるのが一般的である⁹⁾。そこで「語義の軽重」で弁別されている類義語について、さらにどのような弁別法が併用されているか調査した。その過程で、他の弁別法による結果との間に多くの相関性があることがわかった。下表はこの相関性を示したものである。

(図表3) ^{10) 11)}

	否定詞	程度副詞	動態助詞	助動詞	重ね型	名詞的用法	厳粛	使用範囲	褒貶義	使用頻度	書面語	疑問文
軽い語	+	+	+	+	+	-	-	広い	- (中性)	高い	-	+
重い語	-	-	-	-	-	+	+	狭い	+	低い	+	-

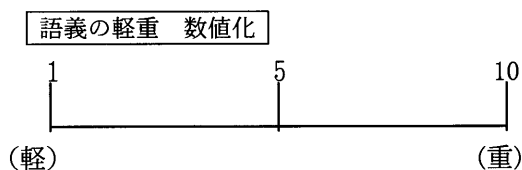
このような「語義の軽重」と他の弁別法との間の相関性に対する認識は、中国語を教える教員のみならず、学習者（レベル的には中級以上の学習者に相当する）にとっても、教育や学習の効果を高めるために必要なことであると考えられる。また語感で軽重を判断することが難しい非ネイティブの教員や学習者にとっては、軽重を判別したり測ったりする際、このような他の弁別法によって得られた結果を根拠となすことができると言える。

3-4 問題点

ここでは、既存の類義語辞典で弁別法として用いられている“词义轻重”について指摘できる問題点をいくつか挙げる。

①伸縮性について

(図表4)



まず(図表4)に示すように語義の軽重を(1)から(10)というように数値化し、数値が大きくなるほど語義の重さが増すということ仮定する。これに基づくと類義語辞典で“語A”は“語B”より軽いと記載されていた場合、例えば“語A”は軽重の数値が(3)、“語B”は(7)であるというように見なすことができる。ただ一部の語については数値を確定できず、例えば(1)～(4)、(4)～(8)などの軽重を示す可能性がある、つまり軽重に伸縮性を認めなければならないということが考えられる。このような伸縮性をもつ可能性が最も高いのは形容詞である。形容詞はある性質や状態を示す品詞であるが、中国語の形容詞は前に何らかの程度を示す副詞を置いて用いることが多い。したがって形容詞の軽重を判別する場合は、語自体が持つ軽重を考える他に、前に置かれた副詞を含めた「副詞+形容詞(修飾フレーズ)」としての軽重をも考慮に入れるべきである。周知のとおり、形容詞を修飾する程度副詞は様々なものがある。“寒冷”という形容詞を例に挙げて言えば、“有点儿寒冷”、“很寒冷”、“非常寒冷”という組み合わせができるが、これら三つが示す軽重は異なる。“有点儿寒冷”の軽重は“非常寒冷”よりも軽いことは明らかで、“很寒冷”はちょうどこの中間であると見なすことができる。“有点儿寒冷”の軽重を(3)とすれば、“很寒冷”は(6)、“非常寒冷”は(8)くらいであると判別できる。そうすると“寒冷”については、語レベルである一定の軽重を判別することは難しく、また判別したとしても実際は程度副詞とともに使われることが多いため、何の意味も持たないことになる。“寒冷”の軽重については前述した伸縮性が具えられ、軽重の数値で判別すれば(4～8)くらいであると判別するのが妥当であると考えられる。

『梅立崇 2002:351』には“寒冷”と“严寒”という類義語が提示され、“寒冷”は軽く、“严寒”は重いとされている。さらにこの二つの語について“寒冷”は程度副詞の修飾を受けるが、“严寒”は普通程度副詞の修飾を受けないという記載がある。“严寒”は同じ形容詞でも、程度副詞の修飾を受けないので、軽重の伸縮性は認められず、一定の軽重の数値を定めることができる。仮に軽重を(8)として、“寒冷”と比較すれば、単独で使われた場合や“有点儿寒冷”、“很寒冷”という形式で使われた場合はより重いという解釈に合う。しかし“非常寒冷”やさらに“特别寒冷”、“极为寒冷”などの形式で使われた場合は“严寒”と同等、もしくはより重い語義を示している可能性は十分にあり得る。このように考えると、辞書で“寒冷”が軽く、“严寒”は重いとすの弁別は、やや妥当性を欠き、言語事実には合わない面があると認識せざるを得ない。辞書の使用者である学習者の立場からしても「“寒冷”が軽く、“严寒”は重い」という情報が効果的であるとは考えられない。

形容詞の中でも伸縮性が認められるのは、一般に語義が軽いとされる方に多いと言える。これは軽い方の形容詞は普通様々な程度副詞の修飾を受けることができるからである。一方、語義が重いとされる形容詞は程度副詞の修飾を受けにくいことから、固定的で決まった軽重の数値を判定できると言える¹²⁾。

このようなことから筆者は類義語辞典あるいは教育の場において、普通程度副詞の修飾を受ける形容詞に対して「語義の軽重」で弁別することは注意を払う必要があると考えている。

②文意(文脈)による影響について

類義語辞典では語のレベルで様々な弁別法が用いられ、解釈がなされている。ただ語自体が持つとされるいろいろな面における特徴が、使われた文や文脈によっては合致しないことはよくある。例えばある語が口語であるときされた場合、その語が新聞などの政治に関する記事の中で何回も使用されていると、口語という解釈とは合わなくなる。語義の軽重についても同じようなことが考えられる。

『袁晖 2003:81』では、“改正”は軽く、“纠正”は重いとされている。以下に示すのはこの二つの語について、この辞書で実際に使われていた用例文の一部である。

- 对于犯错误的同志,我们应该采取“惩前毖后、治病救人”的方针,帮助他改正错误。
- 以前我握笔的姿势很不对,老师帮我纠正了很多次。

上で示した二つの文を比べてみると、全体的に最初の“改正”が使われている文は下の“纠正”が使われている例文よりも重々しさが感じられる。最初の文は文意から文脈が政治あるいは社会的な内容であることがわかる。それに対して、二つ目の文は日常的な話題であり、また文意から文脈もある個人の出来事について述べているものだということが判断できる。語自体の弁別では、“改正”が軽く、“纠正”は重いとされるが、この二つの例について言えば、文意(文脈)の影響を受けて、逆に“纠正”は軽く、“改正”が重いという感覚を持ってしまう。

もう一つ、上と同様の例を述べるが、『梅立崇 2002:447』では“来临”は“降临”より軽くとされている。以下に示すのは、この二つの語について、この辞書で実際に使われていた用例文の一部である。

- 果不其然,让尤小舟说中了,一场建国以来从未经过的困难来临了。
- 从我个人的经历来说,看日出的机会,曾经好几次降临到我的头上,而且眼看就要实现了。

上で示した二つの文を比べてみると、全体的に最初の“来临”が使われている文は下の“降临”が使われている例文よりも重々しさが感じられる。最初の文は“建国以来从未经过的”「建国以来いまだかつて経たことがない」といった部分から重大さがうかがえる。またこの単文だけではわからないが、個人のことでなく、国家や社会のことを述べているというようにも受け取れる。一方、二つ目の文は、最初のフレーズから、一個人のことを述べているのは明らかであり、“看日出的机会”「日の出を見る機会」という内容から文全体にあまり重々しさは感じられない。また“曾经好几次”「かつて何回も」という部分から“降临”で示される動作にさほど重大さがあるとは認識できない。語自体の分析では、“来临”は軽く、“降临”が重いとされるのであるが、この二つの例について言えば、文意(文脈)の影響を受けて、逆に“降临”は軽く、“来临”が重いという感覚を持たざるを得ない。

文意(文脈)の数というものは膨大なものである。それゆえ、類義語辞典において「語義の軽重」で弁別された語が文や文脈によって逆転するという現象が言語事実としてあることはやむを得ない。ただ上掲の例のように類義語辞典の中で「語義の軽重」を用いて弁別した直後に、軽重が逆転していると使用者に認識されるような用例(例

文)の提示は避けるに越したことはない。もしある類義語について軽重を用いて弁別したのであれば、その直後に提示する用例は文意の影響を受けても、ある程度はその通りに軽重が認識できるものであった方がよい。つまり、上述した二つの類義語についてのような用例の提示は、辞書の使用者に逆効果をもたらすと言える。特に語感をもたない非ネイティブ学習者は用例から類義語の区別を認識するという傾向が強いため、このような記載によって学習上の混乱を招く恐れがある。

4 共通の問題点

最後に二つの弁別法について、共通の問題点を指摘し、さらにどのようなタイプの類義語にこれらを用いるのが効果的であるのかということを書いてまとめる。

4-1 類義語群における位置づけ及び範囲、軽重の差について

各類義語辞典でこの二つの弁別法が用いられるのは、単に二つ或いは三つの語を比べて相対的に範囲が広いか狭いか。また語義が軽いか重いかということを書くものであり、語自体が持つ範囲の広狭や語義の軽重であると見なすことはできない。二つの語の比較のみならず、同じような意味を持つ類義語群を考えた場合、範囲が狭いとされた語でも類義語群の中では比較的広い方に位置づけられるといったことが考えられる。同様に軽重についても、軽いとされた語でも類義語群の中では比較的重い方に認識されるといったことがあり得る。

また、範囲の広狭について一方が広く、一方の語が狭いとされた場合でも、二つの語の間にどれだけの範囲の差があるのか。同様に軽重についても一方が軽く、一方の語が重いとされた場合でも、実際どれだけの差が二つの語の間にあるのかという問題が生ずる。例えば賓語を伴うことができるか。また重ね形にできるかといった弁別法であれば一方の語は可、一方の語は不可というように二者択一的に判別ができる。しかし範囲と軽重については、同じように分析された類義語の例の中でも、差の程度によって様々なタイプが存在する。¹³⁾

このような語自体が持つ範囲の広狭や語義の軽重を基に、類義語群における位置づけや、類義語間の差を考慮に入れると、以下に示すようにおおよそ三つに分類することができる。

4-2 “使用范围”で弁別される類義語の三つの類

① “得到/获得”¹⁴⁾ (差が小さい、二語とも広い)

“获得”：动词。着重于经过努力而有所得。褒义词。对象多为有积极意义的抽象事物，如“知识、成绩、经验、（光荣）称号、表扬、奖励、称赞、好评、独立、自由、解放、新生”等。

“得到”：离合动词。着重于事物成为己有。中性词。对象可为抽象事物，还可为具体事物，可为积极意义的，也可以消极意义的，如“胜利、经验、证明、发展、帮助、改善、纠正、休息、教训、惩罚、报应、应有的下场、职业、财产、书刊、粮食、房屋”等。使用范围比“获得”宽。『梅立崇2002:398』

〔“获得”：强调经努力而有收获。使用范围较窄，对象多是积极的、所需要的，可以是具体的或抽象的〕『张志毅2004:206』

まず一つ目は語自体が持つ範囲を観察すると二つとも比較的広く、さらに二つの語の範囲の差は小さいと見なすことができるタイプである。上掲の『梅立崇2002』では“得到”が“获得”より使用範囲が広いとされている。さらに記載から読み取れるのは、“获得”は「褒義（良い意味）」、対象は「抽象的」であるが“得到”の方は「中性義」、対象は「具体・抽象」ともに可であるため、“得到”がより広いといったことである。しかし、その下に示す他の辞書の『张志毅2004』では対象は「具体・抽象」ともに可であるとされている。筆者の調査では“获得”の対象は確かに抽象的なものが多いが、以下のような具体的なものも比較的多く見られた。

- ・与此同时，世界男子保龄球锦标赛于八月在曼谷召开，巴恩斯领衔的美国队同样也获得了金牌。（人民网体育画报2008年9月24日）

- ・在中国玩具总体出口锐减的严峻形势下，这一智能玩具已经为公司获得上千万美元的订单。（人民网人民日报20

08年11月19日)

したがって、この二語についての具体・抽象という区別は不確定であることがわかる。また“得到”は「中性義」と記されているが、実例を調査すると大多数の例については“获得”と同様、「褒義」を示す例である。そのためこの「中性義と褒義」についても区別が明確ではないと言える。さらに、『梅立崇2002』では“获得”に対して、対象となる語（“知識”から“新生”）が提示されているが、このように数多くの結びつく語を提示する一方で、使用範囲が狭いとすることは辞書の使用者にとっては理解しにくい。

(図表5)



また「得る」という類義語群を考えた場合、(図表5)で示したように、“博取”や“获致”のような語は使用範囲が狭いということが考えられる。“博取”の使用例を見ると、まず対象は抽象的なものに限られ、さらに“博取同情”という例がかなりの割合で見られるなど、使われ方がやや固定的である。また“获致”についても対象は抽象的なものに限られ、さらに厳粛性という意味特徴を伴う政治など公式の場における例が大多数を占める。

したがって“获得”は“得到”との比較では範囲が狭いとされるが、語自体が持つ範囲は比較的広いものであり、またこの二語の間にそれほど大きな使用範囲の差はないという認識ができる。

以下はこのような考察により、“获得/得到”と同様のタイプであると見なせる類義語の例である。

- ・了解/理解『刘乃叔 2003』
- ・圆满/美满
- ・情况/状况
- ・礼物/礼品 以上『梅立崇 2002』
- ・毛病/缺点
- ・年龄/年纪
- ・特点/特色 以上『袁晖 2003』
- ・生意/买卖
- ・清楚/明白 以上『张志毅 1981』

② “会见/接见” (差が小さい、二語とも狭い)

“会见”: 着重于双方相约见面; 使用范围较广, 可用于上级会见下级, 也可用于同级的人见面。

“接见”: 指跟来的人见面; 使用范围较窄, 只用于上级对下级的会见。【袁晖2003:110】

[“会见”: 多指彼此相见。也可以用于上对下。“接见”: 多指跟前来的人见面。比“会见”多用于上对下。有时用于彼此相见。]【张志毅2004:363】

[“会见”: 着重于彼此相约而见面。不分会见者和被会见者。会见的双方的地位、辈分相同的人, 也可以地位、辈分不同。]

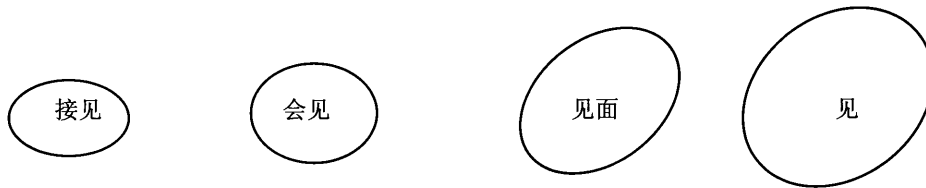
“接见”: 着重于接收对方求见的要求而与之见面。有接见者与被接见者之分, 有接见者多为领导, 被接见者的地位、辈分多比接见者低, 或是来访的人。】【梅立崇2002:398】

二つ目のタイプは上掲の“接見”と“会见”のような類義語である。つまり語自体がもつ使用範囲を考えた場合、二つとも狭く、さらに二語の範囲の差は小さいと見なせるタイプである。上掲の『袁晖 2003』では“会见”が“接見”より使用範囲が広いとされている。さらに記載から読み取れるのは、“会见”は上から下への動作や立場が同じ人同士の動作にも使えるが、“接見”は上から下からの動作しか使えない、ということから“会见”の範囲が広いということである。しかし、下に示す他の二つの辞書では“接見”は上から下の動作を指すことが多いと述べるまでである。さらに【张志毅 2004:363】では「ある時はお互いに会うことを指す」という記載があり、上から下の動作に限らないことが記されている。したがって、「上から下の動作」と「同じ立場の人同士の動作」という区別で二語の範囲を明確に定めることはできないと言える。さらに下の二つの辞書では、“使用範囲”という弁別法が使われていないことを考えても、この二語の範囲の差は明確ではないという認識ができる。

また「会う」という意味の類義語群を考えた場合、下の(図表6)に示すように“见面”や“见”のような語は範囲が広いと見なせる。“会见”と“接見”は「双方の約束の上会う」や意味特徴として「厳粛性、公式的」であ

る場面で使用されることがほとんどであるという制約を考えれば、二語とも語自体が持つ範囲は比較的狭いという判断ができる。

(図表6)



以下はこのような考察により、“会见/接見”と同様のタイプであると見なせる類義語の例である。

・任务/使命『刘乃叔 2003』 ・挖掘/发掘 ・惋惜/怜悯 ・坎坷/崎岖 ・修整/整修 以上『梅立崇 2002』 ・注视/凝视 ・抛弃/遗弃 ・蕴藏/储藏 以上『袁晖 2003』 ・隔阂/隔膜『张志毅 1981』

③ “要求/请求” (二語の差が大きい)

“要求”: 使用的范围比较宽, 可以用于人, 也可以用于物; 可以用于别人, 也可以用于自己; 可以对集体、单位, 也可以对个人; 可以对下级、晚辈, 也可以对上级, 长辈或同辈。

“请求”: 使用的范围较窄, 一般都用于对集体、单位和上级、长辈、同辈。【袁晖2003:293】

三つ目のタイプは、上掲の“请求”と“要求”のような類義語である。つまり、相対的な範囲のほか、語自体がもつ範囲や類義語群における範囲を踏まえても、一方の語は広く、一方の語は狭いと認識できる例である。さらに二つの間の範囲の差が大きく、明確な類義語のタイプである。上掲の『袁晖 2003』から“要求”は「人と物」のどちらにも使え、また「他人と自分」どちらにも使えると記されている。さらに「集団、職場、個人」に使え、人間関係を問わず使えるとされている。それに対して、“请求”は普通「集団、職場」と「上司、年長者、同輩」に使うとされ、“要求”と比べると一定の制約があることがわかる。つまり、“请求”は「物に使えない」、「自分に使えない」、「個人に使えない」、さらに「自分より下の人に使えない」というように使用上かなり制約がある。これらの点について“要求”はすべて可であるため、“请求”の使用範囲は非常に狭いと見なせる。さらに多くの“请求”の実例を調査すると「厳粛」という意味特徴を伴う公式の場で使われている例がほとんどで、日常的な場で使われている例は極めて少ない。一方“要求”の実例を見ると、どちらの場でも多種多様に使われていて、使用範囲が広いと見なすことができる。

以下はこのような考察により、“要求/请求”と同様のタイプであると見なせる類義語の例である。

・稳定/稳固 ・习惯/习气 ・允许/容许 以上『刘乃叔 2003』 ・干净/清洁 ・东西/物品 ・研究/钻研 ・浪费/挥霍 以上『梅立崇 2002』 ・生活/生计『袁晖 2003』 ・准备/筹备『马燕华 2002』 ・中心/核心『卢福波 2000』 ・考试/测验 ・死/去世 ・道路/途径 以上『张志毅 1981』

4-3 “轻重”で弁別される類義語の三つの類

次に「語義の轻重」についても同じように類義語の間の差や語自体が持つ絶対的な轻重を基にすると、三つのタイプに分けられる。分類するにあたり、各辞書における轻重についての記載の他、3-3で述べた「語義の轻重」と他の弁別法との相関性を基準にして、語自体がもつ絶対的な轻重を推定するという方法を用いる。さらに3-4で提示した(1~10)の轻重の数値を仮定して述べる。

①まず一つ目は“吵嘴”と“吵架”のような例である。『马燕华 2002:78』では“吵架”が“吵嘴”より重いとされるが、二つの轻重を比較するとその差はわずかであり、絶対的な轻重を見れば二語とも軽いと見なせる。これを前で仮定した数値で示せば(1と3)あるいは(2と4)などと判別できる。この一組の類義語について、実際の使用状況を調査し、他の弁別法との相関性を基準に測ってみた。その結果を(図表7)に示す。

(図表7) “吵嘴／吵架”¹⁵⁾

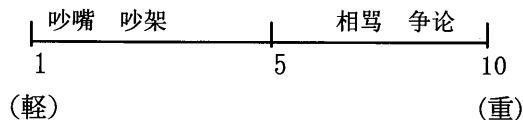
	用例数	否定	動態助詞	名詞用法 ¹⁶⁾	助動詞	意味特徴	使用範囲	会話体	疑問文
吵嘴	26	2	0	1	1	日常的	広い	7	0
吵架	518	27	19	11	34	日常的、公式的	広い	68	10

(人民网搜索¹⁷⁾ 2008年5月1日～11月30日)

前述のとおり、類義語辞典では“吵架”がより重いとされている。これは、主に口喧嘩の度合いが“吵嘴”より“吵架”の方が強いという分析者の語感により主観的判断がなされたものであると考えられる。実際使用されている例を調査した結果によると、二語とも軽く、両者にはそれほど顕著な軽重の差はないものと考えられる。(図表7)によると、両語ともに一般に語義が軽いとされる語に見られる否定詞や助動詞と結び付く例があった。意味の面では、両語とも比較的広い使用範囲を持つ。特に“吵架”については夫婦や交友関係など日常的、或いは公式的な様々な場における例が見られた。また使用面での使用頻度に関して、一般に軽重の差が明確な場合、軽い方の語の使用頻度が重い方を大きく上回るが、この二語に関しては、重い“吵架”の方が“吵嘴”より使用例数が大幅に上回っている。また二語とも話している文をそのまま記した会話体における用例が見られた。全体的に、“吵架”の方が一般的に軽いとされる語に見られる特徴を示す例が多く得られた。これは両語の軽重の差がそれほど大きくないと見なすことの根拠となる。

これら一連の類義語群の中では、例えば“相骂”や“争论”という語が考えられるが、下の(図表8)のような類義語群の中の位置づけが考えられる。

(図表8)



以下は筆者の考察により、“吵嘴／吵架”と同様、相対的な軽重の差異は認められるものの、絶対的な軽重は二つとも軽いと判別できる類義語の例である。

- ・熟识／熟悉 ・改正／纠正 ・疑心／怀疑 ・明显／显著 ・损坏／破坏 ・费心／操心 以上『袁晖 2003』
- ・时常／经常 ・小心／谨慎 ・照应／照顾 ・特殊／特别 以上『张志毅 1981』
- ・愿意／乐意 ・花费／破费 ・富足／富裕 ・过失／错误 ・亲切／亲密 ・呕气／生气 以上『梅立崇 2002』

②二つ目は以下に示す“藐视”と“蔑视”のような例である。『梅立崇 2002:621』では“藐视”が“蔑视”より軽いとされるが、語自体が持つ軽重はともに重く、またこれらの中の軽重の差は小さいと考えられる。これを前で仮定した数値で示せば(7と9)あるいは(8と10)などと判別できる。前の“吵嘴／吵架”と同様、実際の使用状況を調査し、他の弁別法との相関性を基準に測ってみた。その結果を(図表9)に示す。

(図表9) “藐视／蔑视”

	用例数	否定	動態助詞	名詞用法	助動詞	程度副詞	意味特徴	使用範囲	会話体	疑問文
藐视	118	4	0	18	10	1	公式的	狭い	1	2
蔑视	139	2	1	37	3	0	公式的	狭い	1	2

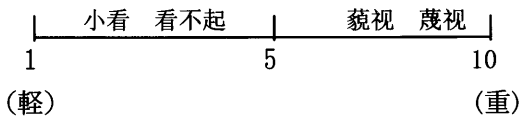
(人民网搜索 2008年8月1日～11月30日)

二語とも心理動詞であるが、語義の軽さの基準である動態助詞や程度副詞がついた例はほとんど見られない。また、文中で述語となる例は少なく、名詞的用法として使用される例が比較的多いということが指摘できる。また意

味の面では“藐视”は全118例中“战略上藐视”が12例、“藐视法律”や“藐视法廷”といった法律に関わるものが27例、“藐视敌人”や“藐视对手”などの例が15例あった。これらのことから、組み合わさる語が固定的で使用範囲が比較的狭いと見なせる。“蔑视”についても歴史や法律といったある一定の範囲で用いられているものがほとんどである。また二語とも日常的な場ではほとんど使われていない。使用面でも、語義の軽さを示す会話体や疑問文における使用例はほとんどない。したがって“藐视／蔑视”は両語とも絶対的な軽重は重いと判別することができる。また上表の統計ではこの二語についてはほとんど差がないことから、辞書では“蔑视”がより重いとされるが、実際は軽重の差があまり大きくないと考えられる。

これら一連の類義語群の中では、例えば“看不起”や“小看”という語が考えられるが、下の(図表10)のような類義語群の中の位置づけが考えられる。

(図表10)



以下は筆者の考察により、“藐视／蔑视”と同様、相対的な軽重の差異は認められるものの、絶対的な軽重は二つとも重いと判別できる類義語の例である。

- ・飞翔／翱翔 ・弊端／弊病 ・炎热／酷热 ・编造／捏造 ・广博／渊博 以上『袁晖 2003』
- ・瓦解／崩溃 ・去世／逝世 ・践踏／蹂躏 ・曲解／歪曲 ・协议／协定 以上『张志毅 1981』
- ・晦涩／艰涩 ・虔敬／虔诚 ・朗读／朗诵 ・空洞／空旷 ・推戴／拥戴 以上『梅立崇 2002』

③三つ目は二つの語について相対的な軽重が示されると同時に、絶対的な軽重という面からも、差が明確であるパターンである。数値で言えば(2と8)あるいは(1と9)というように判別できる。“留恋／眷恋”『刘 2004:341』の例について前と同様に、実際の使用状況を調査した結果を(図表11)に示す。

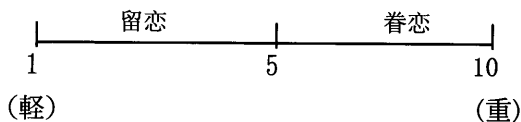
(図表11) “留恋／眷恋”

	用例数	否定	動態助詞	名詞用法	助動詞	程度副詞	意味特徴	使用範囲	会話体	疑問文
留恋	356	43	10	39	32	36	日常的、公式的	広い	18	14
眷恋	226	3	10	110	2	5	公式的	狭い	1	3

(人民网搜索 2008年6月1日～11月30日)

この二語に関しては前述した二つのパターンと違い、多くの面で明確な差があることを指摘できる。まず統語面において否定、程度副詞、及び前に助動詞がつく例について差異が見受けられる。つまり軽いとされる“留恋”はこれらの用例が見られるが、重いとされる“眷恋”にはほとんど見られない。また“眷恋”は動詞であるにもかかわらず名詞的用法が用例の約半数を占めるということが指摘できる。意味の面では“留恋”は日常的な内容から、公式の場における例など様々な場で使われるのに対し、“眷恋”は“眷恋之情”が14例、“深深(地)眷恋”という組み合わせの例が20例と固定化された例がやや多い。さらに“故土”や“祖国”など「土地」を対象とする用例が多く、使用範囲がやや狭い。使用面では、最初に示す使用例数から、使用頻度は軽いとされる“留恋”が“眷恋”を上回っている。また会話体における例と、疑問文中での例についても比較的大きな差が見られる。このことから、(図表12)に示すように“留恋”と“眷恋”の軽重の差は明確であり、それぞれの絶対的な軽重も含めた判別ができると言える。

(図表 12)



以下は筆者の考察により、“留恋／眷恋”と同様、相対的な軽重のほか、絶対的な軽重も認められ、二語の軽重の差が大きく明確であると判別できる類義語の例である。

・成績／成就 ・秘密／机密 ・管理／管制 ・害怕／惧怕 ・乱用／濫用 ・请教／求教 ・宽容／宽恕 以上『袁晖 2003』
・聪明／聪慧 ・确实／确凿 ・清楚／清晰 ・相信／信任 以上『张志毅 1981』
・出色／杰出『刘乃华 2003』
・困难／艰难『卢福波 2000』
・参加／参与『马燕华 2002』
・风行／风靡 ・后悔／反悔
・浪费／挥霍 ・非常／异常 ・劳累／劳顿 ・流利／流畅 以上『梅立崇 2002』

4-4 二つの弁別法を効果的に用いるには(まとめ)

既存の類義語辞典では4-2と4-3で示した三つのタイプはすべて同じように弁別がなされている。ただこのような弁別法の用い方では、単に相対的に二つを比べてどうであるかということを示すにすぎず、一類義語群における語の位置づけ、さらに語自体が持つ特徴を理解するという点については機能していない。そのため、学習者である辞書の利用者に誤った認識をさせる可能性がある。とりわけ非ネイティブ学習者にとっては語自体が持つ特徴も理解することが学習上望ましいため、この点については改める必要があると言える。また範囲、軽重についてそれぞれ二つの語の間の差が小さい類義語について、つまり4-2と4-3で示した範囲、軽重それぞれ①②のタイプについては、これらの弁別法を用いて解釈すると2-4、3-4で示したような問題点のほか、あらゆる問題や矛盾が生ずることが考えられる。

以上のようなことから最後に結論としてどのようにこれらの弁別法を用いるのが妥当であるのかということについてまとめてみる。前で分けた三つのタイプによれば差が大きく、語自体が持つ範囲や軽重をも含んだそれぞれ③のタイプ(範囲については“要求”と“請求”、軽重については“留恋”と“眷恋”のようなタイプ)に限定して用いる。それぞれ①②のようなタイプに属すると見なせる類義語についてはこの二つの弁別法は用いず、他の弁別法により区別を示した方がより効果的である。また既存の辞書でこれらの弁別法が用いられていない例についても考察の対象としなければならない。つまり、もし二語の範囲や軽重の差が大きく明らかであると見なすことができる類義語があれば、これらに対して“使用範囲”や“词义轻重”を用いた方が適切であると考えられる。

(注)

- 1) 日本中国語検定試験の4級以上、HSK(汉语水平考试初中等)の「阅读理解」の問題で見られる。
- 2) 例えば研究面での類義語分析については、二つの語の語源を調べるといった通時的な考察がよく行われる。ただ教育面ではこのような考察はあまり意味を持たないと言える。
- 3) 「張 1980」では“意义差别”、“色彩差别”、“用法差别”、という三つの面における22の弁別法が提示されている。また『严 2008: 凡例 p2』では“理性意义方面”、“搭配意义方面”、“语法意义方面”、“色彩意义方面”、“语用及其他方面”という五つの面における計42の弁別法が提示されている。
- 4) 上から『新华同义词词典』、『简明同义词典』、『汉语同义词词典』は中国人、外国人を問わず幅広く使用される類義語辞典である。四番目の『对外汉语常用词语对比比例释』から『近义词使用区别』、『1700对近义词语用法对比』、『汉语近义词词典』は主に对外漢語教育における初級から中級の非ネイティブ学習者向けに出版されたものである。『どちらがう類義語のニュアンス2』は日本で編集、出版された単行本である。
- 5) 総数と各品詞の総数が合わない個所があるが、これは見出し語の品詞が一致しない例があるためであり、この場合個別に数えた。
- 6) 『汉语近义词词典』については見出し語に品詞分類がされていない。
- 7) (一) はここでの内容と関連性が薄いため省略した。

- 8) 3-1と3-2の内容については、筆者著(研究ノート)「類義語分析における“词义轻重”について」慶應義塾大学外国語教育研究、第4号、2008.3を引用及び参照した。
- 9) 筆者の調査によれば、一組の類義語に対して用いられる弁別法の数平均して2~4つである。
- 10) 表中の(+)はそれぞれの項目と合う例が多く見られることを示す。(−)はそれぞれの項目と合う例が少ないことを示す。
- 11) 項目の否定詞から名詞用法までは主に動詞や形容詞の類義語に関することである。
- 12) 石毓智(2001:126)「鼎盛、万能、精当等语义程度极高的词、根据自然语言的肯定和否定的公理、它们都只能用于肯定式、不能用于否定式。用程度词法也可以得出同样的结果。那些语义程度极高的形容词也不能用程度词切分、根据程度词法、它们也是定量的。因此不能用“不”否定。」を参照した。文中で“语义程度”と称されるのは本稿で言う“词义轻重”と近い含義があると見なせる。
- 13) このような範囲の広狭や語義の軽重において具体的な差異があるということは、次の例における“重得多”“略轻”“窄得多”“窄些”といった各辞書の記載からも確証が得られる。“艰难”の语义比“困难”重得多 『卢福波 2000:371』、“虚假”强调弄假、不真实,意思比“虚伪”略轻 『刘叔新 2004:585』、“荒谬”主要用于思想和言行,适用范围比“荒唐”窄得多 『刘乃叔 2003:173』、“鼎力”使用范围比“大力”窄些 『刘叔新 2004:99』。
- 14) この4-2において“A/B”と表記する例はすべてある類義語辞典でAは範囲が広く、Bが狭いとされていた例である。
- 15) この4-3において“A/B”と表記する例はすべてある類義語辞典でAは軽重が軽く、Bが重いとされていた例である。
- 16) ここでカウントした名詞用法とは、「的」の後ろで中心語として使われる例、「文中の述語動詞の後ろで単独で賓語として使われている例」、「数詞+名量詞」の後ろで使われている例」に限定した。
- 17) インターネットポータルサイト「人民网」の検索機能を利用した。

【主要参考文献】

- 陈炳昭 2001『近以词应用词典』语文出版社
- 方文一 2001「同义词研究要从语言实际出发」『辞书研究』第4期
- 符准青 2000「同义词研究中的几个问题」『中国语文』第3期
- 贺国伟 2005『现代汉语同义词词典』上海辞书出版社
- 卢福波 2000『对外汉语常用词语对比例释』北京语言文化大学出版社
- 刘绪 1997「对外汉语近义词教学漫谈」『语言文字应用』第1期
- 刘乃叔等 2003『近义词使用区别』北京语言大学出版社
- 刘叔新 2004『现代汉语同义词词典第三版』南开大学出版社
- 马燕华、庄莹 2002『汉语近义词词典』北京大学出版社
- 梅家驹等 1996『同义词词林第二版』上海辞书出版社
- 梅立崇主编 2002『汉语同义词词典』商务印书馆
- 石毓智 2001『肯定和否定的对称与不对称(增订本)』北京语言大学出版社
- 王军 2005『汉语词义系统研究』山东人民出版社
- 吴琳 2008「系统化、程序化的对外汉语同义词教学」『语言教学与研究』第1期
- 谢文庆 1982『同义词』湖北人民出版社
- 严戎庚 2008『现代疑难同义词词典』中华书局
- 杨寄洲 2004「课堂教学中怎么进行近义词语用法对比」『世界汉语教学』第3期
- 杨寄洲 2005『1700对近义词语用法对比』北京语言大学出版社
- 袁晖主编 2003『新华同义词词典』商务印书馆
- 赵新、李英 2001「对外汉语教学中的同义词辨析」『暨南大学华文学院学报』第4期
- 张博 2007「同义词、近义词、易混淆词:从汉语到中介语的视角转移」『世界汉语教学』第3期
- 张志毅 1981『简明同义词典』上海辞书出版社
- 张志毅 1980「同义词词典编纂法的几个问题」『中国语文』第5期
- 张志毅、张庆云 2004『新华同义词词典中型本』商务印书馆
- 张志毅、张庆云 2005『词汇语义学(修订本)』商务印书馆
- 相原茂 1998「中国語の類義表現」『現代中国語学への視座』東方書店
- 荒川清秀 2006「やっぱり辞書がすき、中国語類義語辞典」『月刊東方』4月号
- 杉村博文他 1995『中国語類義語のニュアンス』東方書店
- 杉村博文他 2000『どうちがう?中国語類義語のニュアンス2』東方書店

守屋宏則 2002 「教師・上級者必携 有用な常用語句の対比説明—対決! 盧福波著『対外漢語常用詞語対比例釈』VS『類義語のニュアンス』」『月刊東方』6月号